

## 卒業研究テーマ

### アートとデザインの共存～奇跡の学校とクリエイティブコロニー～ 白鳥研究室 182047 宮田純乃

私は何かを生み出すことが好きです。描くことも作ることも考えことも。しかしアートやデザインを学んできた人なら一度はこの壁にぶつかると思う。

私たちはどちらも素晴らしいことを知っているはず。

卒業研究ではアートという要素をデザインである建築という箱に落とし込むことを試みる。

#### デザイン

- ・対象や顧客、目的がある
- ・社会や生活をより良くする
- ・自己表現ではない

#### アート

- ・不特定多数・存在すれば成立する
- ・人に何か感じさせること
- ・自己表現・方法も自由

この何となくの壁が両者を乖離させているように感じる。  
これらが尊重しあい共存する場所を作りたい。

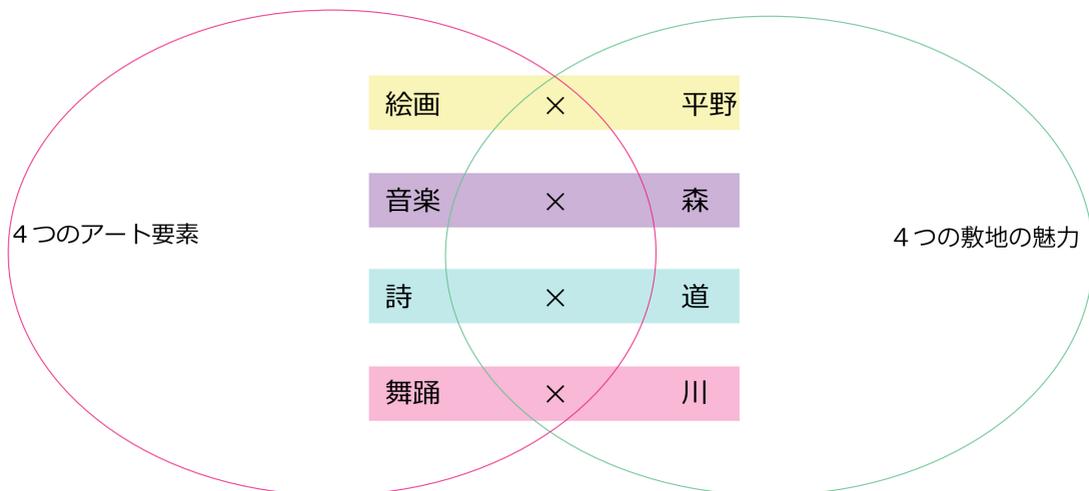
## <コンセプト>

アーティストの住まう場所、クリエイティブコロニーの形成

## <計画内容>

どのような方法で共存させるか、彫刻のような建築を作れば共存になるのか、考えた結果アートの要素を建築というデザインの箱に住んでもらい、そこで各々が制作に励む空間を作ることにした。

アートを建築という箱に落とし込む。四つのアート要素と四つの敷地の魅力を掛け合わせる



## <対象地区>

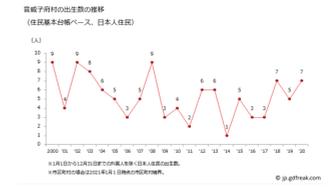
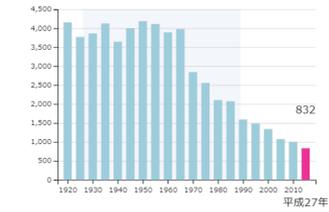
北海道 中川郡音威子府村



人口 800 人に満たない北海道で一番小さな村。

そのうち 150 人程は高校生を含む高等学校関係者で村外から来ている。  
著しい人口減少により高等学校の入学者は住民票をこの村に移し、村民となる。

森と匠の村という標榜を掲げ、村には芸術に打ち込む人々が多い。  
限界集落でありながら北海道内外からの注目を集める村になっている。



音威子府村 人口減少のグラフ

音威子府村の出生率



この村にあるおといねっが美術工芸高等学校は私の母校。  
自然が豊かでいい意味で何も無い場所、何も無いが故に何かを作り出したくなる場所。  
高校は非常に特殊でこの卒業研究のキーワードになってくる。

様々な活動をする人が集まり、交流し制作をする。  
アートもデザインもお互いが尊重しあう  
まさにアートとデザインに携わる人々が共存している場所。

#### 音威子府村という場所

・人との関わり方、自分自身とのかかわり方を深く考えることのできる場所。

・授業や実習でデザインを学んだうえで、各々の意思で制作が出来る場所。  
デザインを極めることも、アートを極めることもできる。

・家具を作る人、絵を描く人、彫刻をする人  
その他さまざま。  
それぞれがまさに共存できる場所であった。

#### アーティストの住まう場所

また、以上のことからアーティストの住まう場所を次の用途として考える。

・村にUターンし、制作をしたいという人

・レジデンスなどで一定期間滞在する人

・村に興味を持ち、制作する人

これらの理由と目的をもとにこの村で計画を進めて行く